

## アイ ウォント コーヒー

大森 海太

前回、日本人の英語について書いたので、それにまつわる思い出話を少々。やや自慢めいで鼻持ちならないかも知れないけど、ご容赦のほど。

海外駐在の経験はないが、仕事の関係で40ヶ国以上訪問。欧米、中東、東南アジアの人たちと、下手な英語で商談、懇談、会食を重ねた。夜の席で酒が入ると、急に英語がうまくなった気がするのをご愛嬌だ。

若い頃 B 商社を介してアメリカの O 社とある商品の売買契約を結んだ。東京での調印の席に上司のお供で行った時のこと、サインが済んだところで、B 社の S 部長が O 社のアメリカ人に我々を指してこう言ったのだ。

“Their gentle smile shows their deep satisfaction.”

S 部長はこのような場面でこんなセリフを何十回も言ってきたのだろうが、これには普段温厚な私も頭に來ましたね。まるで物も言えない未開の原住民みたいじゃないか。なにがジェントル スマイルだ。上司は大人しい人なので黙っていたが、私は猛然と下手な英語でアメリカ人に向かって話しかけましたよ（何を言ったか覚えてないけど）。S 部長の呆然とした顔が忘れられない。

次はリタイアしてからの話。私を含めて4人の仲間で、毎年の冬、東南アジアにゴルフに出かけていた頃で、あの年はタイのチェンマイに行ってゴルフをしたりお寺を見たり、そして市内のレストランで昼食をとった時のことである。目の前にはテレサテンが喘息の発作で急逝したホテルがあり、店内には彼女の名曲「つぐない」がタイ語で流れていた。

食事のあと、仲間の一人 S 君がウェイトレスを呼んで「アイ ウォント コーヒー」と注文したが、相手はキョトンとしてサッパリ通じない。S 君はイライラして声を荒げ、「アイ ウォント コーヒー！ なんだ、こいつは英語が分かんのか」

見かねた私が小さな声で “Coffee please” と言うと、ウェイトレスはニッコリ笑って “OK” と言って戻っていった。S 君は慚然としている。現役時代、要職にあつて海外とも交流のあつた彼にしてこのザマだから、ちょっと考えさせられますね。